

第132回 ふじのくに防災学講座

- 日 時 令和3年3月20日（土）午前10時30分～正午
- 会 場 静岡県地震防災センター2階ないふるホール（静岡市葵区駒形通5丁目9-1）

テーマ 「次の南海トラフ巨大地震の様相」

講 師 静岡大学 防災総合センター・センター長、

静岡大学 理学部 地球科学科

教授 きたむら 北村 あきひさ 晃寿 氏

（講演概要）

静岡県内の4千年間の地層記録からはレベル2津波の痕跡は未検出なので、レベル2地震・津波は起きないだろう。歴史地震のパターンによると、南海トラフの東半分でM8クラスの地震（レベル1地震）が起き、その後、西半分でレベル1地震が起きる「半割れパターン」となる確率が最も高いが、破壊は駿河トラフまでは及ばないだろう。

なお、駿河湾ではレベル1地震に伴う海底地すべりによる「津波」と「海没」が、地殻変動由来の津波と複合し（レベル1.5津波）、被害を拡大する可能性がある。

本講演では、これらの「次の南海トラフ巨大地震の様相」の予想に至った地球科学的根拠と今後の防災上の課題について述べる。

